

しょうがいしゃ じりつせいかつじょうほう
障害者の自立生活情報

ナンバー
No. 74

(2023年11月号)



ナビゲーション

じりつ みち あん ない
自立への道案内

NAVIGATION



こんかい せぶん きょうりよく
今回、Sevenメッセージのインタビューに協力していただいた
ちいきかつどうしえん こにしたつや
地域活動支援センターもくれんの 小西龍也さんです

もくじ

- シリーズ いろんなテーマの「なぜ」を解消！ J R 東海労働組合のみなさん 2
- ~Sevenメッセージ~ 地域活動支援センターもくれん 小西龍也さん 10
- 全国一斉行動！ユニバーサルデザインタクシー乗車行動報告 15
- 編集後記 16

シリーズ いろいろなテーマの「なぜ」を解消!

このコーナーでは教育、施設、交通など各分野に詳しい人にインタビューをしていき、当時の障害者の状況、制度はどう変わってきたのか?今、取り組んでいること、これからの課題はなにか、など語ってもらうというコーナーです。今回は、J R 東海労働組合の畑野さん、三田さん、上田さんに新幹線の乗降介助する時、視覚障害者の手引きをする時など障害者と接する時に大切にしていることを中心にお話いただきました。

名前：畑野 浩孝さん、三田 憲一さん、上田 謙二さん

所属：J R 東海労働組合

～バリアフリーが進んだのは最近の話～
山下：今回のナビゲーションでは、J R 東海労働組合の方々にお話を聞いていきたいと思えます。主には畑野さん中心に取材させていただきます。よろしくお願ひします。まずお伺ひしたいですが、J R 東海に関わって何年目ですか?

畑野：1987年4月にJ R の会社が発足した当時から所属してまゝです。その前の国鉄時代からいますので、国鉄の入社が1981年です。J R 東海にそのまま移行したという形です。改革をして新たに向かひたいとJ R にそのまま移行しました。J R 発足して32年になります。

山下：国鉄で働くきっかけを教えてください。

畑野：伯父が昔、九州の鉄道の蒸気

機関士をやっている、お召し列車(天皇など皇族が乗車する)の機関士が最高峰で、その運転をしたことがあると話を聞いて、新幹線の運転士を目指そうと思ひました。そこにはたどり着けませんでしたけど。

山下：主に運転士から始まる感じなんですか?

畑野：まずは車両の検修の職場に就職するんです。そこから車両の知識を熟知して試験を受けて運転士になるというルートでしたが、J R になってからはまず営業(駅)業務に就いて、車掌業務、運転士というルートに代わってきました。エレベーター方式で試験もあんまりないです。適性検査があつて検査に合格をする。それだけです条件は。基本的には車両のことはあまり知らないです。僕らのほうがよく知っているという

かん
感じですね。すべてコンピューター
かんれん おお
関連が多くなりましたしね。

やました ねんまえ でんしゃ の とき
山下：30年前は電車に乗る時とか、スロー
プはありましたか？

はたの しやりようせいびかんけい
畑野：車両整備関係にいたので、あまりわ
かからないですね。JRになった時
に僕と三田さんは車両の仕事をし
ていたけど、駅の営業の仕事に代わ
りました。その時、スロープあった
かなあ。そもそもバリアフリーでは
なかったですね。エレベーターも
ぎょうむよう つか
業務用を使っていました。

やました しんおおさか ぎょうむよう
山下：新大阪駅も業務用のエレベーターあ
りましたね。

はたの じえいあーとうかいほつそく じ えき ぎょうむよう
畑野：JR東海発足時はどの駅も業務用
のエレベーターでしたね。



はたの
畑野さん

やました どうにゆう
山下：いつスロープ導入されたんですかね。

さんだ おも
三田：重たいスロープですらなかったかも
しれないですね。

うえだ
上田：スロープがそもそもあったのかなあ。

さんだ やました むかし の とき
三田：山下さんが、昔、乗られた時は、ス
ロープありましたか？

やました さいしょ の とき ちゅうがく ねん とき
山下：最初に乗った時は、中学3年の時で
スロープはあったと思います。

さんだ いま だんさ すきま か
三田：でも、今と段差と隙間は変わらない
ですからね。なかったら乗れないで
すからね。当時は、ほとんど、改札
ぎょうむ つ
業務に就いていたのでホームにあが
ることないんですよ。

はたの ふ ぎょうむよう
畑野：さきほども触れましたが、業務用の
エレベーターを使って移動してもら
ったことはあります。エレベーター
が出来たのが10年前、15年前ぐら
いですからね

さんだ しょうがいしゃ でんしゃ の で
三田：障害者が電車に乗ってどこかへ出か
けることが少なかつたんだと思いま
す。今でこそ、エレベーターが完備さ
れたりとかなくなっていますが、当時は、
しょうがいしゃ しんかんせん の ちょうきより そと
障害者は新幹線に乗って長距離で外
に出るのがかんが という時代
だったと思います。在来線も地下鉄も
ふく かねが じだい
含めバリアフリー化になってきたの
が、ここ10年ぐらいですよ。ひどい
もんでしたよ。

やました ぼく ねん まえ しんおおさか つか
山下：僕も15年ぐらい前に新大阪を使って
とうきょう い ぎょうむよう
東京駅へ行くことがあって、業務用
のエレベーターを使ってました。
ちか とお しょうわ くら ところ
地下を通過して昭和レトロな暗い所
を通過して迷路でしたね。東京駅はも
っと迷路でした。今は、普通にエレ
べーターを利用できますが、行列が
でき の じかん
出来てて、乗るのに時間がかかるな
あとと思っています。

さんだ とうきょう かいさい
三田：東京駅オリパラが開催されたんです
けど、コロナが流行して、世界中か
らオリパラの選手だけじゃなくて
かんけいしゃ にほん こ
関係者も日本に来れなかったという
のが痛手だったと思います。

やました ぐたいてき いたで
山下：具体的にはどんなことが痛手だった
とおも
といますか？

さんだ はっしん にほん
三田：発信できなかったんです。「日本これ
だけ遅れているよ」と遅れてることを
せかい はっしん きかい
を世界に発信できる機会やったんで
すけどね。障害者にとっては、逆に
マイナスになったのではないかなと
おも 通常で開催できてた
ら「これおかしいやん！新大阪駅とい
うたら大阪の玄関口やのに、このエレ
ベーターこんだけ狭いの！電車乗る
のに段差や隙間はあるし。」もうちょ
っと世界の人に大阪に来てほしかっ
たなとおもったんですけどね。発信力
からしたら弱かったのかな。



さんだ
三田さん

の じかん の あ まえ
～乗りたい時間に乘れるのが当たり前～

やました ねんご ばんぱく とりく
山下：2年後の万博にむけて、なにか取り組
んでることはありますか？

さんだ じえいあーる
三田：J Rとしてはあんまりないですね。
おおさか ちゅうしん
大阪メトロさんが中心ですね。

はたの しゅよう えき だんさ
畑野：主要な駅の段差をなくしていこうと
いう動きはあると思います。東京駅
はなくしてきましたから、今度は
おおさか かんさいばんぱく み こ
大阪で関西万博を見越して、ホーム

かいりょう い
の改良をしていこうと言っています
したね。組合としては常にここ何年か、
だんさ
段差をなくすべきだと言ってきました
けどね。じゅう りよう
自由で利用できるのは
こうきょうこうつうきかん きほん ようぼう
公共交通機関の基本だと要望してき
ましたが。なかなか進みませんよね。

やました い ねん まえ はたの
山下：そう言えば、2年ぐらい前、畑野さ
ん達と6席設置されている新幹線に
たち せきせつち しんかんせん
乗車させてもらいましたが、その時
もいろいろ課題があるなと感じまし
た。

はたの の
畑野：そうですね。デッキに乗りまし
たけど「これでは、車いすの人は空し
か見えないですね。」と山下さんが言
われた時『そういえば、そうやな。
デッキの窓は立っている人だけがみ
えたらいいのかなそうじゃないよ
な。』と気づかされました。「今、駅に
つ着いてるんだらうか。」「どこを走っ
ているのかわからない。」ちょっと下
の方に小窓を付けるなど工夫が必要
だなとおもいました。

やました せき しんかんせん いま
山下：6席の新幹線は今はどれぐらいあるん
ですか？

はたの やく へんせい
畑野：約30編成ぐらいしかないです。もっ
と増えてほしいですね。支援学校
しゅうがくりょう じき おお おも
の修学旅行の時期は多いかなと思
いますが、その他の時期はほとんど
りよう
利用がないです。

やました せき しゃかい ひろ
山下：6席あるということは、社会に広まっ
ていますか？

さんだ こくち よわ
三田：告知もまだまだ弱いかもしれないで
すね。

はたの へんせいすう ごうしゃ
畑野：編成数もそうですし、11号車にしか
ないというのは、まだまだですよね。

の乗りたい時間に乗れるということ
は当たり前のことなんですけどね。
自分たちで6席の新幹線の時間を調
べていかないとダメですよ。
参議院議員の議員さんにもお話し
する機会があって「現場視察に行きま
す。エレベーターが渋滞している
のは実感してます。」と言ってくれ
ています。

三田：車いす席の切符をネットで買えない
問題も、まだまだ残っていますよね。
どうして、わざわざ駅の窓口に行か
ないといけないのか。それと、一人で
介助なしで乗り降りされたい方は
一人で行って頂いたらいいですし、
介助が必要な方は依頼できるような
選べる仕組みが必要ですよね。

山下：ネットで買えるようになればすごくス
ムーズに乗れる人が増えると思いま
す。

三田：出来ると思うんですけどね。



～誰もが乗れるようになることが大切～

山下：次の質問をさせてください。日頃、
スロープ介助をしていて気づいたこ

とありますか？

畑野：いろいろ不自由だろうなと思った時
に、余計におせっかいになっている
場合もあるのだなと。僕たちは気を使
っているいろいろやろうとしているのだ
けど、介助を必要な方からしたら、そ
んなんええねん他の人と同じように
してくれたらええねん。ということが
最初の頃はわからなくて、よく
怒られていました。例えば「電車から
降りるのは最後でいいですか？」と
「なんで最後にいかなあかんの？」と
か。パーサーの人とかは「最後に行き
ますね。」と言われるけど「なんでな
ん。早く降りて目的地に行きたいね
ん。」僕らからすると、先にいくとあ
とがつかえて余計に嫌なんじゃない
かなと思うのですが。

三田：あるお客さんが東京駅からきて新
大阪駅で降りる時に京都駅を出たぐ
らいで降りる準備をさせられて、で
も、新大阪駅着いたら降りるのは他
のお客さんが先で車いすの人は
一番最後なんです。早くから準備さ
せられて降りるのが最後。これで
苦情が寄せられました。ホームで30
分怒られました。

山下：僕も東京駅から新大阪駅へ帰る時、
京都駅に着くと車掌さんが来て、デ
ッキに移動してくださいと言われる
ことがあります。でも、降りるのは他
のお客さんが降りた後になりました。

畑野：寄り添うということではなくて、一
緒に考えるということが、僕たちの

ほうがおごりたかぶりという、お手伝いしてあげているということではなくて、一緒にどう考えていくという寄り添いかたが、なかなか難しいなと。

三田：だから、当事者の話を、具体的に聞くというのは大切ですよ。そんなことを感じているんやなど、車いすのお手伝いや視覚障害者の方の介助をさせてもらう時に、わかったことが良かったなと思います。目線が合う。合わせていただいた。なかなかわかりませんもんね。

畑野：障害者と関わらないとわからないことですよ。

山下：僕がエレベーターを待っていても、外国人の方は先に譲ってくれることが多いですね。

畑野：文化の違いなんですかね。後ろの方に車いすの方が並んでいても、先どうぞと言ってくれますよね。

山下：スロープのお仕事はどれぐらいされてるんですか？

畑野：5年目になりますね。

三田：私は、17年ぐらいやっていますね。そういう業務が始まった時は1日数10件から始まって、今は多い時は120件ぐらいです。昔からしたら考えられない。環境もまだまだ不十分ですが、整いつつありますからね。

畑野：障害者だけじゃなくて、ご年配のお客様のお話で「今までやったら外に出られなかったんです。娘や孫に来てもらうばかりでした。でも、設備や体制が整ってきたので、行け

るようになりました。」と言ってくれるようになりました。誰もが安心して乗れるようになることが公共交通機関として大事なと改めて思いました。使命なんだと思います。そういうお話を聞いたことは良かったと思います。

～もっと社会に向けて取り組んでいく～

山下：社員にむけて研修はしているんですか？

三田：ある社員の発案でアイマスクを付けてみたり、車いすに乗ってみる等の研修をやり始めています。実際に車いすに乗って声もかけられずに急に上げられたりすると、すごく怖いですね。これまで、そういう研修をしてこなかったの、そういう発想にもならなかったんです。体験型の研修をやっと導入してまです。やらないと押しつけになってしまいますよね。当事者と一緒に出来たらいいなと思います。

山下：研修の時は、当事者も参加する方がより具体的な研修ができると思うので、研修をされる時は、協力させていただけたいと思います。

畑野：当事者の意見や状況を把握して、どういう風にバリアフリーを実現するかのお話をさせてもらったり色々な所に掛け合いに行けたことです。それが一緒に出来た。視野も広がり、

実現できたことが自信になりました。

1つ1つのことを当事者と一緒にやる意味の重要性をととも感じました。

三田：当事者のお話を聞かせてもらおうと、改善することがいろいろ出てきますよね。

上田：J R 東海労働組合を結成して32年になりました。仕事を通じて、障害者と関わりを持って労働組合として何ができるのか、なかなか個人としてはできないわけですよ。労働組合としてヒューマンズを大切にしているので、それで何が出来るのか、スロープ改良問題や車いすスペース 6席設置など、D P I さんや議員さん、ちゅうぶさんと出会って、そこで初めて課題を知って、繋がりを持っていてやれることをやっているという感じですよ。32年前はバリアフリーのことは発想してませんでした。昔は旅のプレゼントという企画で J R 東日本の組合が障害者を招待したという企画もありました。

山下：どんな企画ですか？

畑野：1つの車両を借りて北海道まで行ってましたね。その時に参加された障害者の方はお父さんやお母さんとかお風呂に入ったことがないんです。「組合員の方が、俺と一緒に入るんやで。」と言って体や頭を洗ってあげました。お風呂から上がった後、すごい喜んでいたという話を聞きました。

山下：その子は、とても貴重な体験をされ

ましたね。

畑野：そうですね。介助できる資格を持つてわけじゃないけど、やっぱりヒューマンズというところで同じ人間やん。その当時から障害者を意識するようにはなってますけど。本格的に障害者と接したのは仕事に就いてからですね。

上田：スロープ介助のお仕事は単なる仕事じゃないだなと思いました。

畑野：労働組合は、自分たちの賃上げ要求だけやればいように思われがちですが、社会性だとか人間性も大切にしてもっと社会に目を向けて政治的なこともあり、そういうことを、ひとつづつ取り組んでいって初めて、労働組合としてどうしていくのか。自分たちの要求だけやっていると、そこに結集している仲間はヒューマンズだとか抵抗していただくとか、共生していくだとかいろんなことを考えていく、そういう人間性は必要なのかなと思います。



上田さん

～まだまだ差別は起きている～

やました 山下：ハード面、ソフト面、変わってほし

いことはありますか？

はたの 畑野：投資するところとちゃんと投資する。駅の無人化だとか、障害者は困りますよね。障害者差別の研修というか教育をちゃんとしていくべきだと思います。私鉄などには導入されていますが、サービス介助士の資格を持った人を増やしていけたらなと思っています。

さんだ 三田：具体的な例ですけど、聴覚障害者の方に対して、第一印象として手を差し出す。聴覚障害者の方と聴導犬が待っている場所へ向かった時に、ベテランの係員が最初に何をしたかという、手を差し出したんです。お客様はご立腹されて苦情になりました。犬を連れてたら、もう盲導犬と思っ込んでしまってるんですよ。聴導犬と書いてるし、事前に「聴覚障害者の方ですよ。」と伝えているにも関わらず、手を差し伸べてしまう。対応する側の教育もやらないと。ハード面は組合も会社に要求していくことも大切ですね。

はたの 畑野：前にはこんなこともありました。介助犬を連れていらっしゃるお客様を介助してほしいと係員に伝えて「介助犬やからな。小さなプードルみたいな犬も介助犬の場合もあって膝の上に乗せている場合もあるからな。ケースに入れてください。なんて言うたらアカンで。介助犬とマークも付けてると思うけど。気をつけて案内せなア

カンで」と言ったことはあります。様々な状況があるから教育は大切だと思えます。

やました 山下：安心して新幹線に乗るためには、どうしたらいいと思えますか？

はたの 畑野：駅についたら「導線が確保されている」「電車への乗り降りがすぐできる」「切符を買うシステムがスムーズ」であったり「お店がどこにあってとかいう案内「自分がどこに行きたいのかすぐ分かるシステム」が誰にでもわかるようになれば良いなと思えます。

さんだ 三田：無人駅の話で具体的な例があるんですけど、新幹線の名古屋駅駅から在来線に乗る時に「降りる駅が無人駅だから1つ手前の駅に変えてもらえるようにお客様に言うてくれませんか？」というのは過去にありました。

やました 山下：降りる駅を変えるなんて健常者では考えられないですよ。バリアフリー化を進めるために鉄道事業者や障害者がやっていくべきことはなんだと思えますか？

はたの 畑野：一緒に課題を話し合ったり、一緒に現場調査に行ったり、その結果をいろんな人に伝えて一緒に問題意識として捉えてもらう活動を共にしていけたらと思えます。障害者の方が知らないところで勝手に決められていることがないようにしたいですね。

やました 山下：私たちが言っている「私たち抜きに私たちのことを決めないで」これは、すごく大事だし、まだまだ社会に

は浸透していないなと感じました。
 三田：新大阪駅の可動柵は12月に全部設置
 されました。隙間解消は、まだです
 が、来年2月には一部で解消されます
 ね。障害者差別解消法が来年4月
 義務化されますよね。自分たちでやり
 たい。自分たちで自分たちのことは決
 めたい。私たちの意見を聞いてくだ
 さいと言うことですよね。

山下：大事にしていきたいことです。まだ
 まだお聞きしていきたいこともあり
 ますが、最後の質問をさせてください。
 みなさんの座右の銘を教えてください。

畑野：実践と理論。労働組合で学んできた
 ことで、まずは実践から始まるん
 です。その後に理論がある。と言われ
 た先輩がいて、何事も行動をまず
 起こして、理論が先にくると絶対にお
 かしくなるから、まず行動を起こすこ
 とから始めなさいと。

三田：私は臨機応変。人生、臨機応変。い
 ろんな場面に遭遇するから。その
 時は、こうあるべきやというのは横
 に置いていて、その時その時、
 臨機応変に対応していかないとダメ
 な世の中になってきている。昔のこ
 うあるべきやぞ。という世の中は、
 もう通用しない。『井の中の蛙大海
 を知らず』というのは、我々のこと
 であって、同じ業種で働いていて
 他のことを何も知らないというのは、
 もう少し考えを軟らかくしていかな
 ないアカンなと思います。

山下：今日は、貴重なお話聞かせていただ

きました。これからもバリアフリーの
 ために一緒に活動していけたらと思
 います。よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

畑野、三田、上田：

ありがとうございました。

2021年 車いす席6席ある新幹線に乗車
 してきました。



6席満席になるぐらい需要が増えてほしい
 し、そのためには、6席スペースがあるとい
 うことを知ってもらうことが大切です。

せぶん 〜〜〜Seven メッセージ〜〜〜

名前：小西 龍也さん 35歳

所属：地域活動支援センター もくれん

趣味：プログラミングやゲーム等

小西さんのご希望で障害を障がいと表記しています。

山下：今回は大阪市東住吉区にある地域活動支援センターもくれんで、ピアサポーターをされている小西龍也さんにお話をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

小西：よろしくお願いたします。



○今の仕事に関わるきっかけ

小西：きっかけは「生活訓練のスタッフからピアサポーターという仕事があるねんけど、どうかな。」と言われたことがきっかけです。スタッフからピアサポーターの仕事内容の説明は受けたんですけど、正直、完全には理解できてないところもあったんです。そのスタッフの期待に応えたいという一念で、このピアサポーターの仕事を5年続けています。もくれんではピアサポーターは僕も含めて2名でやっています。

山下：ピアサポーターになるための研修は必要ですか？

小西：大阪市都島区のこころの健康センターで研修を受けまして、そこで8回研修を受けて修了証をもらえる

という形です。5年間も続けることが出来て感無量です。

山下：もくれんで働く前は、どうされていましたか？

小西：もくれんで働く前は郵便局で働いてたんですけど、勤めてた時に上司からのパワーハラメントで統合失調症になってしまって「ハガキを2,000枚売ってこい！」と言われて、なんとか成し遂げることは出来たんですけど、辛い思いだけを背負ってしまいました。

山下：郵便局を辞めてからは？

小西：1年半ほど、ひきこもってなんとか社会復帰したいなあ。と家族からの後押しもあり大阪市平野区喜連瓜破にある職業リハビリテーションセンターに行こうと思ったんですけど、8割出席しないと卒業ができない

と説明を受けたので、就労移行支援もくれんに通うことになったんです。就労移行支援に通ってる途中で、挫折してしまうことがあったので「生活訓練に通った方が良い。」と言われて、もくれんに通うことになったということです。

やました 山下：生活訓練に通い始めて、小西さんの中で変化はありましたか？

こにし 小西：生活訓練に通い始めて3年ぐらい経って「小西さん変わったね。」と言ってきて、その姿を見てピアサポーターになってみないか。と声がかかったんですね。当時は、人と話をしなかったし、あるきっかけがありまして、それを経験したから変わっていったと思います。

やました 山下：どんなきっかけですか？

こにし 小西：私は、パソコンのことが少し詳しくて、パソコンが苦手なご利用者さんがいて、その方に「良かったら教えてくださいか？」と言って親身になって教えてたわけです。その結果、心の底から「ありがとう。」と言ってくれたんです。ただそれだけなんですけどね。

やました 山下：人から頼りにされることは自分自身の自信にも繋がりますよね。

こにし 小西：そうですね。小学校から高校までイジメを受けてたことがあって人から感謝されることはあんまりなかったんです。そのことで、心の底からありがとう。と言ってもらえて私は変わることができました。その方は今も生活訓練に通われています。当時生活訓練のスタッフから言われたの

は「本来の力が発揮出来たんやで。」と言われて、その言葉は今でも心に残っています。今はその支援者は退職したんですけどね。

○仕事のやりがいを教えてください

こにし 小西：今まで自分のことを話してくれなかったことが「小西さんやったら話せる。」とか「小西さんと話をしていると面白いわ。」と言ってくれると、僕もやりがいを感じますね。5年間続けているといろいろな人と出会ってきたというのもありまして。面白さは、自身の病気のことが知れるということ、統合失調症という病気を持っているんですけども、その中でこういう症例があって、こうやって回復していく過程があるということを知れることが面白いですね。

やました 山下：日頃、利用者さんとの関わりの中でも、やりがいとか感じることはありますか？

こにし 小西：パソコンの使い方を教える時も「小西さんが居てくれたから試験に合格ができた。」という言葉をいただいたことはやりがいに繋がっています。

○続けられている理由は、なんですか？

こにし 小西：5年経ちますが、勤めてる中で辞めたいという気持ちじゃなかったかという正直、ないとは言いきれないで

ですが、ピアサポーターの時給の面と
か待遇の問題とか他の仕事に転職し
た方がいいんじゃないかと考えたこ
ともありました。親から「昔、郵便局
で働いていた頃のことを考えたら今
の職場がいいと思うよ。」とアドバイ
スをもらいました。そういうこともあ
って雰囲気も良いし給料も、もらえ
ているし、今の職場の方が良いんかな
と思いつけた結果、今があるんですよ
ね。

山下：悩みを相談できる人はいますか？

小西：一応います。余談ではありますが、
家族であったり、利用者さんから
「小西さん辞めないで。」と言われた
りとか「辞められたら俺は誰と話し
たらええんや。」と葛藤される方もい
て、私は必要とされているんやなと
改めて感じさせられました。そのこ
とがあったおかげで、今も続けられ
ていると思います。

山下：そういう言葉があるのとないのとで
全然違いますよね。

小西：本当にそうですよね。言葉の重みっ
てすごいなと思います。

山下：これからも続けてください。

小西：はい。これからも続けていくつもり
でいます。ありがとうございます。

山下：1か月どれぐらいの方のお話をお聞
きするんですか？

小西：100人ぐらい傾聴することもありま
す。「小西さんやからお話しできる。」
と言ってくれる人もいるので、そう
いうことを聞くと必要とされてるん
やなと嬉しくなります。

山下：ピアサポーターはどんなことをする
お仕事ですか？

小西：ピアカウンセリングが主で、話を聞
くことに徹するとか、思いを聞き取
ることが中心になります。パソコン
講座であったりとか、いろんなプログ
ラムの起案をさせてもらったりとか、
利用者さんがどんなことをしたら楽
しいだろうとかか考えたりとか。

山下：利用されている年齢層は？

小西：40歳から50歳代が多いですね。友達
を連れてきてその中で交流をされ
る方もいますね。いろんな障がい
の方が来られてますね。誰でも来れる
場所を目指してます。地域活動支援
センターは居場所ですからね。



○当事者と関わる中で大切に

していることは、なんですか？

小西：対等性です。私は精神障がい、知的障がい、発達障がいもあるんです。でも、その中であの人は知的障がいだからこういう仕事は絶対無理だろうとか。じゃなくて、知的障がいがある私でもここまで出来るんやでというのを見てもらって「私は知的障がいやけども、小西さんみたいにできるんや。」と対等性を持って接することを大切にしています。大切にしないと、世の中変えていくのは難しいと思うんです。対等性にズレが生じる時もありますけどね。

山下：そういう時はどう対処してるんですか？

小西：例えば、友達感覚で接しないでほしいと言われる方がいたので、そういう方には敬語を使って接するとか礼儀をもって接しています。逆に敬語で話されるのが苦手という方には友達感覚でお話させてもらったりとか、そういう風に上手いこと工夫するようにしています。

山下：誰にでも同じように接することが対等じゃなくて、その人に合わせた対等性ですよね。対応に困ることもあると思うんですけど、そんな時は、どうされてるんですか？

小西：仕事の悩みを相談する場所として他団体の方に協力してもらっています。そこで色々、吐き出しをしないと自分自身が潰れてしまうと、自分自身が潰れてしまうと、

利用者さんとスタッフさんと共倒れになってしまうそういうことになってしまいますよね。頑張りすぎる時もありますね。むしろ暇な時間が私には苦痛というところもあって、でもどっかで自分でブレーキをかけないと本当に潰れてしまうので。ブレーキをかけられるようにしています。

山下：頑張り過ぎない秘訣はありますか？

小西：家族の顔を思い出したり必要としてくれている人の顔を思い出したりするようにしています。職があることは幸せと思わないといけませんね。障がい当事者が働くって難しいですね。精神障がい者への差別はまだまだありますよね。ピアサポーターが活躍しているのに病院には「ピアサポーターは不必要や。」と思われていたりしますよね。たかが共感と言われるけど「共感の力を舐めたらアカンで。」と思います。

○活動していて気付いたことは？

小西：就労移行支援に通っていた自分と今の自分とだいぶ変わったことはあると思うんです。人間不信を解消されたり、人と話すことに抵抗がなくなりました。笑顔が増えたと思います。家族もその姿を見て「あんた、だいぶ変わったな。」と言ってくれるので、嬉しいです。祖母は私がしんどかった時期にも「自分のやれる範囲で頑張りや。」と言ってくれたので、涙が出るぐらい身に染みだという

か、せめてもの恩返しに毎日、祖母の好きなダーズリンティーをローソンで買って行って、毎日飲んでもらっています。仕事は週4日働いています。家族の顔を思い出して頑張っています。

〇座右の銘はありますか？

小西：【為せば成る。】です。我々も障がい者に対する社会情勢を変えていかなアカン！という思いを持ち続けるからこそ、障がい者差別解消法が出来たりとか合理的配慮が義務化に変わってきたりもしてるので努力も必要ですね。合理的配慮の中身を考えていきたいです。

山下：為せば成るを座右の銘にしようと思ったきっかけは？

小西：小学校の教師から「為せば成るで」と言われてたんです。どんな意味かなと思って辞典で調べたら、こういう意味やったんやなと思って。しんどくなった時にも為せば成ると思うようにしています。自分の人生みたい言葉やなと思っています。

〇挑戦してみたいこと

小西：地域移行に挑戦してみたいですね。病院とかで長期入院されている方の力になりたいというか私でも役に立てるかもしれないという思いからです。入院経験はないけど、やっ

てみたいと思いますね。仲の良い方がいるんですけども入院して地域に戻ってきてほしいな、そのお手伝いがしたいなと思っています。結構、長く入院している方なので。具体的にはこれから考えていく必要がありますが。

山下：ピアサポーターが増えていったらいいですね。増やしていくためにはどういう方法があると思いますか？

小西：地域によってピアサポーターの認知度の差があるので啓発活動は大事だなと思います。いろんな人に知ってもらうこと大切ですし、私もピアサポーターの仕事があることを知らなかったの。

山下：今日は貴重なお話ありがとうございました。

小西：ありがとうございました。

【小西さんにお話を伺った感想】

実際にピアサポーターをされている方にお話が聞けて勉強になりました。言葉の力って、すごいなと思いました。小西さんの言葉で助けられた利用者さんもいるだろうし、利用者さんの言葉で小西さんが励みになったこともあっただろうし。やっぱり『ピア』＝『仲間』っていいなと実感しました。小西さんありがとうございました。

ぜんこくいっせいこうどう

じょうしゃこうどうほうこく

全国一斉行動！ユニバーサルデザインタクシー乗車行動報告

10月20日（金）にD P I 日本会議の呼びかけでユニバーサルデザインタクシー

（以下：U Dタクシー）への一斉乗車行動企画に参加してきました。

「U Dタクシー（ユニバーサルデザインタクシー）」とは

健康な方はもちろんのこと、足腰の弱い高齢者、車いす使用者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の方など、誰もが利用しやすい”みんなにやさしい新しいタクシー車両”であり、街中で呼び止めても予約しても誰もが普通に使える一般のタクシーです。運賃は一般のタクシーと同じです。



○今回の目的 全国一斉行動！U Dタクシー乗車行動 企画書より一部抜粋

車いすのまま乗車できるユニバーサルデザインタクシーの普及が進んでいます。国土交通省は2025年度までに総車両数の25%をU Dタクシーとする目標を掲げ、2022年3月時点で、全国のタクシーのうち16.9%（29,657台/175,425台。東京駅は50.2%）が導入されています。しかし、残念なことに、車いすユーザーへの乗車拒否が無くなりません。国土交通省は2018年11月に通達を出し、事業者に対し、車いすユーザーの乗車拒否は道路運送法に違反すること、定期的に研修を実施すること、U Dタクシーを指定した予約・配車が可能となるようにサービスを充実させること等を求めました。D P I 日本会議では、2019年度に続き、本年10月20日（金）に全国一斉でU Dタクシーの乗車運動を行います。車いすユーザーが乗車することを通して、乗車拒否の実態を把握し、課題がどこにあるか調査する。

○U Dタクシー一斉乗車行動に参加して～

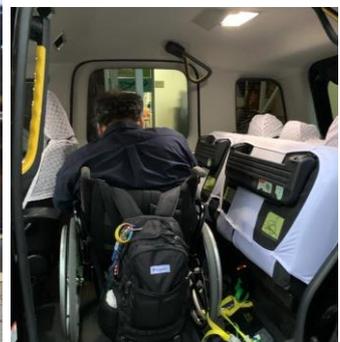
南海なんば駅近くタクシー乗り場から乗車を試みました。当日は大雨で、タクシー乗り場に屋根を設置してほしいと思いましたが、雨に濡れないためにタクシーを利用することもあるのに、乗車するまでに、びしょ濡れになります。車いすユーザーはU Dタクシーに乗降する時に運転手にスロープを準備して

もらわないといけません。手際のよい運転手だったら、まだマシかもしれないけど、不慣れな運転手だと乗降するまでに運転手も利用者も、お互い濡れて気を遣います。

結局なんばでは乗れず、天王寺へ移動し10分ぐらい待たせられU Dタクシーに乗ることができました。乗車拒否されることなく乗ることができましたが、運転手がスロープを出す経験がなく「設置のやり方がわからないので



こうぶざせき じょうしゃ
後部座席から乗車



かいてん しんこうほうこう む
回転ができず進行方向に向
くことができない。

時間がかかったらすみません。」と言っていました。運転手さんはタクシードライバー歴8年。U Dタクシーの運転手になって3か月。研修の時は横で見ただけで詳しくは研修を受けていないとのことでした。U Dタクシーの課題は、運転手の研修が不十分だということを実感しました。

